

令和元年度 事業報告書

目 次

本部事業	1
保健事業	2
調理事業	3
指定生活介護事業所あゆみ	4
指定生活介護事業所すてっぷ	5
指定就労継続支援 B 型事業所めぐみ	6
指定短期入所事業所あゆみ	8
指定短期入所事業所べるで	9
指定居宅介護等事業所さんぽ道	10
指定共同生活援助事業所ホームみどり	11
指定共同生活援助事業所ホームおれっち	12
指定特定・一般・障害児相談支援事業所ぴあん	13
指定児童発達支援事業ふわり・放課後等 デイサービス事業所かぜのこ	14
日中一時支援事業所あゆみ	16

本部事業報告

はじめに

令和元年度のあゆみ園の運営につきましては、利用者本位の安全で安心な質の高いサービスを提供することを基本方針として、役職員の協力により充実した活動を展開してきました。

しかしながら、11月には不適切な支援があり、利用者や保護者の皆様を始め多くの方にご迷惑をお掛けしました。今回の事実を重く受けとめ様々な改善措置を実施しましたが、今後も更なる支援向上を目指し努力を続けます。

また、主要事業としては、4月より日中一時支援事業所風の子クラブに加え、定員10名の多機能型事業所として児童発達支援事業所「ふわり」・放課後等デイサービス事業所「かぜのこ」を新設しました。開設当初は利用児童数も少なく不安な面もありましたが、月毎に児童数も増え現在は順調な運営が続いています。

1 管理運営体制

令和元年度は評議員会を2回、理事会を6回、監事監査を1回開催しました。

定時評議員会	6月21日(金)	平成30年度決算及び事業報告他
臨時評議員会	3月26日(木)	役員等報酬規程の改正他
第1回理事会	6月2日(水)	平成30年度決算及び事業報告他
第2回理事会	6月21日(金)	理事長の選任他
第3回理事会	9月11日(水)	特定処遇改善手当の支給他
第4回理事会	11月27日(水)	上半期事業報告・収支決算報告他
第5回理事会	2月19日(水)	支援向上(虐待防止)委員会委員の選任他
第6回理事会	3月26日(木)	令和2年度事業計画及び予算他
監事監査	5月31日(金)	平成30年度決算他

2 人材育成

平成28年度より導入しました人事考課制度は、昇給や異動等の人事・給与制度の公平性・透明性確保はもとより、上司が部下との面談を通じ、職員に期待することなどを一人々に伝えながら人材育成を図り、更には個々の職員の意見を事業運営に反映することに重点を置いています。まだ試行的な面もあり完全実施には達していませんが、職員間にも制度の趣旨が徐々に浸透しています。

また、昨年度は新採用職員を対象にした研修制度を設けました。その内容は、あゆみ園の沿革から利用者支援の基礎、人事や給与制度など幅広い分野に及び、新採用職員に早く馴染んでもらい更には法人全体の支援力向上を目指しています。

3 公益活動

社会福祉法人改革に伴い社会福祉法人は、地域における公益的な取組を実施することが求められています。あゆみ園では、栃木県内の社会福祉法人で構成される地域における公益的な取組推進協議会が主催する「いちごハートネット事業」に参加し、地域における様々な福祉課題に対する相談窓口を設置しています。また、栃木市が行っている「くらしだいじネット事業」にも参加し障害者等の高齢化・重症化・親なき後等に備えた緊急支援体制の一端を担っています。

さらに、大規模災害時における広域支援を行う栃木県災害福祉支援チームに職員2名を登録しており、10月の台風19号による大規模水害にあつては職員1名を派遣しました。また、栃木県社会福祉協議会、栃木県障害施設事業協会の要請に応じ被害にあつた近隣施設等へも数日間にわたり職員を派遣しました。

保健事業報告

はじめに

7月に嘱託医1名、8月に看護師1名増え、利用者・職員の健康管理や感染の予防に努めました。インフルエンザは、職員1名と利用者1名の感染がありましたが、感染拡大することなく収束しています。

また、新型コロナウイルスについては、感染予防や対策を嘱託医と相談し法人全体で取り組み感染防止に努めています。

- ・嘱託医による内科検診 生活習慣病検診の実施
- ・ホームみどり・あゆみ・すてっぷ・日中・短期利用者の菓の準備と確認
- ・発熱・怪我等による緊急通院や医療的処置などの看護業務
- ・各種申請や専門相談員との連絡相談
- ・利用者への支援

健康管理について（結果）

時 期	項 目	対 象			合 計
		グループ ホーム	日中活動 事業所	職 員	
毎月	体重・血圧測定	27名	27名		54名
5/ 4～6	帰省時健康チェック	17名			17名（外出 含）
6/13	内科検診	26名	44名	54名	124名
6/13	検尿検査	27名	40名	54名	121名
7/9	救急法講習			11名	11名
8/13～16	帰省時健康チェック	17名			17名（外出 含）
10/17	生活習慣病検診	27名			27名
10/17	結核検診		34名		34名
11/7	インフルエンザ予防 接種	26名	33名	54名	113名
12/ 5	内科検診	26名	38名	25名	89名
12/ 5	検尿検査		34名		34名
12/29～1/3	帰省時健康チェック	17名			17名（外出 含）
毎日	体温測定				
随時	歯ブラシ・コップ消毒				

その他

感染に対する予防・マニュアルの確認、日々の体調やADLなど身体的な機能の変化を観察し、家族も含め嘱託医・主治医・各専門員との連携を取りながら今後も対応していきます。

調理事業報告

はじめに

令和元年度の調理事業については、次のとおりです。

- *あゆみ 昼食を提供(食堂にて)
 - *すてっぷ 昼食を提供(料理をすてっぷに配達し支援員と配膳)
 - *めぐみ 昼食を提供(料理をめぐみに配達し支援員と配膳、食器洗浄)
 - *ホームみどり 朝夕食、休日昼食・3時の手作りおやつ、季節に応じた特別メニューを提供
 - *短期入所、日中一時 朝昼夕食を提供(食堂にて)
 - *職員 朝夕食を提供(当直勤務の職員のみ)
- (献立は業務用食材配達業者「タイヘイ株式会社」に部分委託)

< 概ね達成できたもの >

1、献立について

- (1) 誕生月の利用者に嗜好調査を行いながら、希望メニューを月に2回提供することで、利用者の好みに沿えるものを提供することができました。
- (2) 栄養面での偏りを考慮し、カルシウム・タンパク質・鉄分・ビタミン類を補えるようメニューに組み入れ提供しました。

2、栄養改善について

- (1) ホームみどりでは、上記(2)により栄養価月報を作成し栄養の改善に努めました。
- (2) 朝食のみあゆみ献立で提供し、栄養価月報を見直し改善に努めました。
- (3) 給食施設における栄養、給食管理等の状況把握の為に、給食実施報告書を年2回(5月・11月) 県南健康福祉センターに提出し、給食喫食者の栄養の改善及び健康の保持増進を図り、栄養管理に努めました。

3、衛生管理について

- (1) 害虫駆除 5月、11月に実施
- (2) 検便検査を毎月実施
- (3) 自主衛生管理(HACCP)に沿った衛生管理の徹底(給食日誌・個人衛生チェック表・食品衛生チェックリスト・検食簿・環境衛生)に努めました。
- (4) 原材料受け入れ時の交差、二次汚染防止に努めました。

4、災害時非常食対応 各事業所に提供できる体制を整えました。

5、ホームみどりの休日の3時に手作りおやつを提供しました。

< 今後の課題と目標 >

現在、献立を「タイヘイ株式会社」に部分委託しています。朝食のみをあゆみ献立で提供していますが、栄養面を考慮し3食の提供を目標に業務内容の検討を考えています。

指定生活介護事業所あゆみ事業報告

はじめに

年度途中で退所される方もいましたが、特別支援学校を卒業したばかりの2名の方に契約をしていただいたこともあり、1年を通し定員以上の利用者数を確保することができました。平均利用者数についても昨年度より増やすことができ、安定した事業所運営を行うことができました。

令和元年度利用実績

定員	20名
契約利用者	25～27名（内、週3日利用者2名・週2日利用者1名）
月別契約利用者	27名（4・5・6・7月） 26名（8・9月） 25名（10・11・12・1・2・3月）

(利用状況)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
営業日数	21	22	22	22	22	22	23	22	22	22	21	22	263
1日平均利用者数	23.2	22.5	21.8	22.2	21.3	21.9	20.9	21.7	20.8	20.4	19.9	20.2	21.4

(事業実施状況)

事業	実施日	参加人数	事業	実施日	参加人数
納涼祭	8月25日	全員	新年会	1月18日	全員
クリスマス会	12月18日	全員	グループ別日帰り旅行	年2回	希望者
もちつき会	12月28日	全員	グループ別一泊旅行	年1回	希望者

1 概ね達成できたもの

- ・散歩の機会を確保し、体力維持や機能維持に繋げることができました。また、散歩する場所を状況に応じ変更することで利用者の気分転換を図りました。利用者一人一人の身体的特性に適した支援内容を提供できていたかについては、判断が難しく今後検討が必要かと感じました。
- ・生産性のみを重視することなく、利用者の気持ちに配慮した活動への参加を促すことができました。自主産品制作によって得られた工賃額は昨年度より少ないですが、外出や余暇活動などの費用として有効的に使うことができました。
- ・昼食外出や少数に分かれての旅行など、楽しみながら社会ルールに触れる機会の確保に繋げることができました。

2 達成できなかったこと

- ・公共交通機関を利用しての外出の機会を設けることができませんでした。
- ・参観や懇親会といった保護者との関係構築のための機会を作ることができませんでした。

指定生活介護事業所すてっぷ事業報告

はじめに

令和元年度は、定員20名・利用契約者24名（ホームみどり21名、在宅より3名）でスタートしました。年度途中で1名の他事業所への移動がありました。3月末での利用契約者数は、23名となっています。

令和元年度利用実績 定員20名 利用契約者24名(4月～12月)、23名(1月～3月)
(利用状況)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
営業日数	21	22	22	22	22	22	23	22	22	22	21	22	263
1日平均利用者数	22.2	22.5	22.4	22.6	22.2	22.1	22.4	22.1	22.2	22.1	21.8	21.9	22.2

(事業実施状況)

事業	実施日	対象者	事業	実施日	対象者
花見	4月2日	全員	新年会	1月18日	希望者
納涼祭	8月25日	全員	グループ別 日帰り旅行	年2回	希望者
クリスマス会	12月18日	全員	グループ別 一泊旅行	年1回	希望者
もちつき会	12月28日	全員			

1 概ね達成できたもの

<日常生活支援・作業>

- ・個々の目標に合わせてADLの維持、低下の防止に繋がりました。
- ・活動の中で、健康・体力維持の為に散歩や室内での軽運動の機会を確保し体重の増加と健康維持に努めました。利用者の年齢・身体・状態に合わせた内容を設定し、転倒や怪我に繋がらないよう見守りや手添え等にも配慮し支援しました。
- ・個々の能力を考慮し利用者にあった作業内容、工程の提供を行うことができました。

<余暇活動・社会参加>

- ・社会参加として、個々の能力や内容等の希望を考慮した上で、小人数のグループによる外出の機会を設けることができました。

2 達成できなかったこと

<日常生活支援・作業>

- ・利用者の障害特性に応じた支援が不足していた場面があり、落ち着いた環境の提供に繋げる事は少なくなっていました。また、職員数に合った作業内容を設定できなかったため、利用者、職員の負担が多くなりました。
- ・事業計画では保護者参観を予定していましたが、実施することができませんでした。

<余暇活動・社会参加>

- ・地域の清掃については実施できましたが、予定していた回数までは行う事ができませんでした。
- ・社会参加の面では行えたものもありますが、職員数や季節により外出を控える事もあり、利用者の満足できる内容、提供までは至りませんでした。

指定就労継続支援B型事業所めぐみ事業報告

はじめに

令和元年度は、4月1日に新規の利用者が1名入りました。退所される方はなく、そのまま1年間25名の契約者のご利用となりました。

令和2年3月31日現在、利用者は25名で、グループホームぼくんちより3名、にゃんきちより2名、ホームみどりより4名、自宅より16名が通所利用されています。

令和元年度利用実績 令和元年度 定員20名・利用契約者25名

(利用状況)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
営業日数	21	22	22	22	22	22	23	22	22	22	21	22	263
平均1日利用者数	22.5	22.0	22.1	22.7	20.6	20.9	19.9	20.8	21.1	21.3	21.9	20.9	21.4

(事業実施状況)

事業	実施日	参加数	事業	実施日	参加数
大掃除(6月)	6月16日	20名	利用者旅行	年6回	19名
納涼祭	8月25日	15名	柵障協交流会	10月10日	21名
大掃除(12月)	12月1日	18名	新年会	1月18日	13名

作業活動について

年間工賃総支給額 2,783,153円(前年比91.7%)

1か月の平均工賃 9,402円(令和元年度)

10,716円(平成30年度)

10,016円(平成29年度)

昨年度まで1か月の平均工賃は、着実に増額傾向でしたが、段ボールやアルミ缶などの資源回収の単価が大幅に下がり、工賃減の要因になりました。

そのため中央パッケージ(古河市)、松下通商(野木町)との取引を増やしました。現在のめぐみ事業所の主な作業は、ボールペン等の筆記具パッケージングと自動車部品の枠外しが中心です。

また、国が進める農福連携事業として、ブルーベリーや黒大豆の栽培を行っていますが、工賃や作業量に占める割合はまだ少ないです。

主な取引先及び年間収益一覧

取引先 作業名	年間収益 (円)	備考・作業内容など	前年比 (%)
江田加工所	70,501	ボールペン組立、枠外しなど	34.1%
光栄電機	224,342	断熱シール貼り、コードのカバー付けなど	77.5%
中央パッケージ	880,773	ゼブラ製品のパッケージ詰め、箱詰め	161.8%
トップ工業	156,800	金属のカット折り作業(車のマフラーに使用)	96.4%
松下通商	239,660	自動車部品(スポンジの枠外し)	285.4
栃木法人会	103,461	定期発行物(法人便り)の袋詰め、発送	111.1%
籠谷いちご園	27,750	いちごの箱折り作業	82.5%
尾花いちご園	23,460	いちごの箱折り作業	86.1%
公園清掃	35,000	栃障協委託	58.3%
オーシマ小野 商事	44,000	施設外就労。封筒貼り。毎週月曜午前中	139.2%
関口商事	545,451	資源回収。毎月第3水・木曜は全体で地域回り。新聞、段ボール、アルミ缶。	44.3%
栃木清掃サー ビス	82,425	資源回収。段ボール、雑誌、アルミ缶等	96.1%
農産物販売	112,000	ブルーベリー、黒大豆の栽培、収穫、販売	267.7%
スペース24	162,036	市内駅前5か所の駐車場管理業務	前年度無し

注) 主な取引先又は作業のみ掲載

指定短期入所事業所あゆみ事業報告

はじめに

短期入所あゆみ（単独型）は、市内外含め約70名近くの方々に利用をしていただきました。将来を見据えたグループホーム利用の為の体験利用やご家族のお仕事、冠婚葬祭などの緊急時など、様々な利用目的に合わせて受入れを行ってきました。利用される方とご家族に安心して利用していただく為に、ご契約前に施設内の見学や説明を丁寧に行ってきたことで、多くの方々に「また利用したい」と言っていただき、次のご利用に繋げることができました。

1 利用状況 延べ利用者数 1,710人 一日平均利用者数 2.91人
 (※平成30年度 延べ利用者数 1,947人 一日平均利用者数 3.50人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	29日	31日
延利用者数	148人	146人	146人	154人	142人	143人	144人	132人	156人	137人	135人	127人
1日平均延利用者数	4.90人	4.71人	4.87人	4.97人	4.58人	4.77人	4.65人	4.40人	5.03人	4.42人	4.66人	4.10人

2 具体的な活動内容

- (1) 利用者及びご家族の利用目的を聴きとり、可能な限り希望に沿ったサービスを提供しました。
- (2) 営業日を365日とし、受け入れを行いました。
- (3) 冠婚葬祭などの緊急時に優先的に利用していただけるよう調整させていただきました。
- (4) 快適に過ごしていただけるよう、定期的に居室の清掃や季節に応じた寝具の提供を行いました。
- (5) 栃木市くらしだいじネット（緊急短期入所）の受入れに協力をさせていただきました。

3 今後の課題と目標

様々な理由により利用のキャンセルがあったことで、昨年度よりも稼働率が低下してしまいました。今後は、引き続き利用者からのニーズを大切にすることで安定した稼働率を維持しながら、安心して利用していただく為に、外部研修等に積極的に参加し支援の質の向上にも努めていきます。

指定短期入所（空床利用型）事業所べるで事業報告

はじめに

空床利用型短期入所べるではホームみどり、みどり棟内の空床を利用した短期入所として将来的にホームみどりの利用を視野に入れた方に利用して頂きました。

今年度は一名の方に継続して利用していただき、ホームみどりの生活にも慣れてきた様子が伺えました。職員も利用者の支援を継続して提供出来たことで、利用者の特性に応じた支援が行えたと思います。

1 利用状況

延べ利用者数 330名 一日平均利用者数 0.9人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
営業日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延べ利用者数	19	16	29	30	30	29	30	29	30	30	28	30	330
1日平均利用者数	0.6	0.5	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9

2 具体的な活動内容

- (1) 利用者、保護者との連絡調整を行い、継続的に安心してご利用頂けるように配慮しました。
また保護者の要望などを聞き取り、可能な範囲で対応致しました。
- (2) 利用者の快適な居室や生活環境を提供出来るように努めました。
- (3) 利用者の能力に応じた支援の提供、状態に応じた対応を行うことで不自由なく生活を送って
もらえるように努めました。

3 今後の課題と目標

職員の人員不足もあり、空床居室を全て利用しての短期入所は難しいと思われます。状況や利用者の状態に応じて不自由なく利用して頂けるように、調整しながら事業の継続を検討していきます。

また、みどり棟利用中の利用者と共同生活を送るので双方の利用者に対して快適に利用して頂けるように配慮していきます。

指定居宅介護等事業所さんぽ道事業報告

はじめに

令和元年度の利用者は、「在宅」「グループホーム」等合わせて約70名でした。

職員、ヘルパーの異動は無くサービス提供責任者2名、ヘルパー業務専属者3名の体制でサービスを提供しました。

1 利用者へのサービス提供について

- ・相談支援専門員からの情報を基に、利用者や保護者（施設においてはサビ管、担当職員）のニーズに沿った個別支援計画を作成し、適切なサービスの提供が出来ました。
- ・それぞれの特性を理解した上で、利用者に対し統一したサービスの提供が出来ました。
- ・目頃より利用者の心身の変化を気に掛け、状況により相談支援専門員や関係機関と連携を図りながら必要な対応をしました。

2 ヘルパー資質向上について

- ・在籍中のヘルパーにおいては、当事業所が行う福祉サービス提供に必要な資格研修をすべて修了しています。
- ・定期的に事業所内勉強会を行い、栃木市障がい児者相談支援センター主催の研修会には、サービス提供責任者が参加しました。

3 事業展開について

- ・人員不足は続いていますが、対応可能な依頼については新規受け入れを行いました。
- ・今後サービス提供継続が難しくなると思われる利用者に対し、相談支援専門員を通し対応の調整を始めました。
- ・求人は行っていますが、問い合わせはありませんでした。

指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業所ホームみどり事業報告

はじめに

今年度の契約利用者数は前年度に変わりなく27名の利用者がホームみどりで生活されています。利用者1名が転倒による骨折の為、入院生活を送りましたが、入院生活中の連絡・調整を行い、無事に退院され、ホームでの生活を再開することが出来ました。

職員2名の退職に伴い、職員の人員不足、利用者の身体的な介護度の増加などから新規利用者の入居に対応することが難しいため、当面は現在の27名の利用で継続していきたいと思っております。

(利用状況) 定員30名 契約利用者27名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
営業日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延べ利用者数	810	822	810	837	811	798	806	806	814	810	783	837	9,744
1日平均利用者数	27	26.5	27	27	26.1	26.6	26	26.8	26.2	26.1	27	27	26.6

<日常生活支援について>

食事、排泄など利用者の状況に応じて必要な支援を適宜提供してきました。入浴に関しては人員不足等により、以前のような毎日の入浴支援の提供が困難になってしまいました。

<健康面について>

毎日の検温、様子観察などを行い、日中活動事業所とも協力することで利用者の皆様の健康管理を行ってきました。定期通院や体調不良時には看護師、居宅介護事業所とも連携を図り、適宜通院、日中の対応などを行ってきました。

日常的に手指の消毒や手洗いなどを励行し、風邪などの予防に努めました。

利用者の高齢化・身体機能の低下により、転倒等の事故の発生がありました。

<余暇活動、外出支援、社会参加について>

居宅介護事業所と連携し、利用者の状況や希望に応じた移動支援の内容を提供出来るように努めました。

<日中事業所との連携について>

日中活動事業所として主に利用している、生活介護事業所や就労系事業所とも常に連携を取り、相互に協力しながら利用者の生活支援を行うことが出来ました。

<防災、避難訓練について>

あゆみ園の防災規定に基づき、避難、通報訓練を実施してきました。しかし、天候等により避難訓練を実施出来ず、通報訓練のみになることもありました。

指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業所ホームおれっち事業報告

はじめに

ホームおれっちでは、現在ぼくんち・にゃんきち共に6名ずつの計12名の利用者にご利用いただいております。ぼくんちで1名の方が高齢になったため入所施設に入所が決まり退所がありましたが、同月に新しい方の入所が決まりました。12名の利用者がそれぞれの事業所や一般企業へ通いながら地域生活を送っています。個々においては様々な課題を有していますが、それぞれの生活スタイルに合わせた日々の生活が安心して過ごせるよう支援しています。

1 利用実績

<ホームにゃんきち>定員 女性6名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
1日平均利用者数	5.4	5.3	5.4	5.5	4.9	5.4	5.3	5.4	5.2	5	4.8	5.1

<ホームぼくんち>定員 男性6名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
1日平均利用者数	5.5	5.4	5.6	5.1	4.8	5.1	5.1	5.3	4.8	4.8	5.2	5.2

2 概ね達成できたもの

- ・「自分で行うこと」を基本に支援し、衣食住の様々な場面において個々の課題に応じた支援をしました。また、健康的なバランスのとれた食事の提供を行いました。
- ・健康面については通院した様子に関係機関、日中活動事業所にも今の状態、今後の状態などについて連絡調整ができ概ね達成することができました。
- ・サポート体制の整備については、月1回の世話人会議を行い情報の交換を行い連携を図ることができました。
- ・余暇時間についても個々の希望、要望を聞きとり実施に繋いできました。

3 達成出来なかったこと

- ・健康面において、適度な運動量を継続し確保することができませんでした。
- ・余暇支援において、新しい余暇の過ごし方を一緒に考え実行することができませんでした。
- ・関係する事業所との連絡、連携がスムーズにとれるよう整備・調整を図ってきたものの、きちんと共有できていないことがありました。連絡・連携の不備による利用者の不利益に繋がらないよう十分配慮していきます。
- ・ホームヘルプ等を利用しての社会参加の機会が出来ない時があり、外出のサポートができないことがありました。公共交通機関(タクシー等含む)の利用等のサポートをしていきます。

指定特定・一般・障害児相談支援事業所びあん事業報告

1 指定特定相談支援事業

本事業は、障害福祉サービスを利用する方には必要であるサービス等利用計画の作成を主としたものです。令和2年3月31日現在の計画作成者数は約140名で、あゆみ園の利用者に限らず、他法人や他市町在住の障害者支援にも携わっております。また、他事業所では受けられないような困難ケースも一切断らず対応していることから当事業所の信頼を得ております。ただ、利用者の最善の利益を考えた相談業務をすすめていくためには、数のバランスが適しているとは思えません。しかし、この課題は全国的にも同様に生じており、当事業所としては相談員の役割と責任を細分化するなど対応の検討を重ねています。今後もより質の高い計画と支援が必要とされるため、引き続き研修や県内の同業種のつながりのなかでスキルアップを目指します。

2 指定一般相談支援事業

長期入院者や入所者の地域移行や地域定着の相談支援を主とした本事業は、国の施策も計画的な退所や退院をすすめているためそのニーズは高まっています。

しかしながら、自治体にもよりますが本事業の有効性が医療機関に周知されていないなど様々な課題があり、実際にサービスの利用までに至らず相談のみで終結することもあります。結果、今年度の実績は1名のみでした。ただ、統計的にみると長期入院者の退院数は少しずつ増えており、医療従事者の退院支援も増えていることが分かります。まだまだ障害福祉計画でうたわれている目標退院者数には及びませんが、引き続き県内の精神科病院や入所施設との関係を円滑・強化し、希望に応じたサービス提供がスムーズにできるよう体制を整備しています。

3 指定障害児相談支援事業

平成31年3月に開始した本事業は、障害児の健やかな発達のために家族や関係機関との連携をもとに、就学や就職などライフステージに合った支援をすすめることができるよう、日々の基本相談を大切に、信頼関係を深めていくことを心掛けています。令和2年3月31日現在の登録児童は約20名ですが、特定相談同様、希望者はできるかぎり受け付けているため、市内外の障害児支援事業所や関係機関からのニーズは高まっています。引き続き「サービス利用するため」だけの相談支援ではなく、療育や家族支援の視点も備えた多角的な相談支援をすすめていくことができるよう自己研鑽の機会を計画的に実施する必要があります。

4 その他

・本事業は3名の相談支援専門員が担当し、1名が栃木市障がい児者相談支援センター（委託事業）に出向し、市の相談支援事業者の連携や機能強化に寄与しました。また、市自立支援協議会の運営においても中心的に関わり、市の障害福祉や地域福祉の発展に向けての取り組みをすすめています。

・県が地域の中核となる相談支援専門員の養成を目的に実施した「相談支援リーダー養成研修」に参加し、今年度の相談支援従事者初任者研修と現任者研修の運営にも関わってきました。その他、県内外の研修に積極的に参加すると共に、行政や関係団体からの講師依頼の業務も多く受けています。

指定放課後等デイサービス事業所かぜのこ・児童発達支援事業所ふわり事業報告

はじめに

平成31年4月から定員10名の多機能型児童通所支援事業として、児童発達支援事業所ふわりと放課後等デイサービス事業所かぜのこを開設しました。

当初は児童発達支援事業所ふわりの利用が少なく不安定な時期もありましたが、7月から利用が増え徐々に安定してきました。これは一歳半健診が5月～6月に行われるため、栃木市の児童発達支援の利用決定が増えたこと、併せて栃木市や社会福祉協議会へ積極的にPRした結果と考えられます。

また、放課後等デイサービス事業所かぜのこの利用は当初から安定していましたが、これは前年度までの日中一時支援事業所風の子クラブの継続利用が大きな要因でした。さらに、特別支援学校や近隣小学校へもPR活動を行い、新たな利用にも繋がりました。

児童通所支援事業、特に放課後等デイサービス事業は、複数の社会福祉法人等が既に多くの事業所を運営しており、その中でいかに利用者・保護者の信頼をいただき利用してもらえるか、また出来るだけ早期の利用に繋げるか、大きな課題でした。そのため専門職員の配置や研修の充実など支援力向上を特色とし、また法人内の他事業所にも協力いただき、安定した利用に繋げることができました。

令和元年度利用実績

定員	10名		
契約利用者	ふわり 11名 (内、個別2名)	かぜのこ 16名	
月別契約利用者数	13名 (4・5・6・7月)	16名 (8月)	17名 (9月)
	20名 (10・11月)	21名 (12月)	25名 (1月)
	27名 (2・3月)		

(利用状況)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
営業日数	21	22	22	22	22	22	23	22	22	22	20	22	262
1日平均利用者数	4.8	4.8	5.2	5.3	5.4	7.6	7.5	8.2	7.3	8.7	9.1	8.4	6.9

- ・10月は台風や実習、修学旅行があり、ご利用が伸びませんでした。
- ・12月は体調不良により欠席が多く、ご利用が伸びませんでした。
- ・3月はコロナウイルス対策のため、ご利用が伸びませんでした。

(事業実施状況)

事業	実施日	参加人数	事業	実施日	参加人数
親子 BBQ	5月6日	2家族	夕涼み会	7月15日	10家族
電車に乗ろう	7月24日	4名	流しそうめん	8月12日	6名
園外学習	9月23日	12名	クリスマス会	12月23～27日	その日の利用児
節分会	2月3～7日	その日の利用児	卒業お祝い会	3月11日	5名

1、概ね達成できたもの

- (1) 親子 BBQ は連休最後の日でしたが、参加家族2組で楽しい時間を過ごし、交流を深めることが出来ました。
- (2) 夕涼み会は始まりの時間が遅かったため、ふわりの利用児の参加はありませんでしたが、かぜのご利用の10組の家族に参加していただきました。また、一日預かりだったのでかぜのご職員だけでは準備が難しく、法人内の他事業所からも協力いただき、児童への支援方法や展示物、ヒーローショーなど楽しい時間を過ごしました。また、参加した家族の方からは、職員との交流のみならず家族間の交流もできて有意義だったと感想をいただきました。
- (3) 園外学習は、事前にアンケートを取り、「なかがわ水遊園」と「道の駅きつれがわ」を予定していましたが、台風の影響で「栃木県子ども総合科学館」に変更になりました。急な変更にもかかわらず、ご家族の協力により無事行うことが出来ました。
- (4) 毎月の誕生会には、調理実習を行い、自分たちで作ったおやつを食べて過ごしました。
- (5) 利用者・保護者との信頼関係を早期に築くため支援力向上を目的に出来る限り専門職員を配置しましたが、これに伴う人件費負担を少しでも軽減するため児童指導員等加配加算などを取得しました。

2、達成できなかったこと

保護者との相談会、交流会については、利用児の様子を知っていただき、また保護者と職員間の交流を深めるためにも大変有意義です。そのため保護者参観や交流会、もしくは勉強会などを検討しましたが、日程調整等が上手く行かず実施できませんでした。

日中一時支援事業所あゆみ事業報告

はじめに

日中一時支援事業所あゆみは、ご利用される方々の安全を第一と考えると共に、可能な限りご本人やご家族のニーズに合わせた受入れを行ってきました。また利用者ひとり一人の障害特性や利用者間の相性などを考慮した利用スケジュールを組むことで、トラブルや怪我の予防にも繋げてきました。

これまでも緊急的な依頼についても可能な限り調整・受入れを行うことで、ご家族との信頼関係を構築することができたことを踏まえて、今後の利用に繋がるようなサービス提供に努めています。

1 利用状況

延利用者数 3, 217人 (前年度比 +46人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	29日	31日
利用者数	302人	296人	271人	257人	225人	286人	307人	266人	255人	252人	246人	254人
1日平均利用者数	10.0人	9.5人	9.0人	8.2人	7.2人	9.5人	9.9人	8.8人	8.2人	8.1人	8.4人	8.1人

2 活動内容と達成できたもの

- (1) 外出や創作活動など季節を感じられるような活動を取り入れることができました。
- (2) 学校の長期休暇中も、可能な限り家族の要望に沿った時間帯での受け入れを行いました。
- (3) 利用者が興味を示す遊具や本を購入し、楽しんでいただけるような環境を作りました。
- (4) 担当者会議に参加することで、保護者や各関係機関との連携、情報共有を図りより良いサービスの提供に努めました。
- (5) ボランティアや実習生、アルバイトを積極的に受け入れることで、風通しの良い施設作りを心掛けました。

3 今後の課題と目標

慢性的な人員不足から、全てのニーズをお受け出来ない状況が続いています。利用を希望される全ての方々をお受けできるよう、支援職員の確保を進めていくと共に、積極的に研修や勉強会に参加することで、安心して利用していただく為のサービスの向上にも努めます。

また、ご家族からの日中一時支援のニーズは高く、且つ土日の受入れを行っている事業所が少ない中で受け入れている利点を活かし、支援職員が充足した際には、幅広く利用者を受け入れます。それにより、将来的に法人内の生活介護事業所や就労継続支援事業所の利用にまで繋げていきたいと考えています。